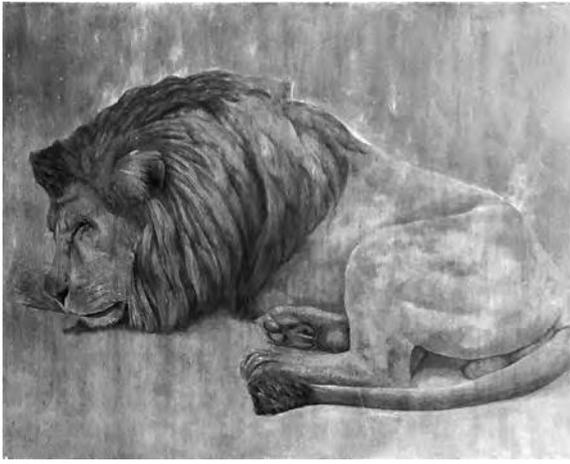


『夢育』で育む子どもたちが活躍する岡山の未来へ

県教育庁教育次長

梅 崎 聖



高校生のとき建築家に憧れ、岡山を離れた私が、四半世紀ぶりに岡山に戻り県教育委員会です仕事をする。これは全く想像できなかった。だが、久しぶりに広げた卒業アルバムには「新たな生活が始まる。その中で自分らしく生き、いろいろな経験をしていきたい」とある。これは今も変わらない。

今、県教育委員会は『夢育』を進めている。これは、変化の激しい予測困難な時代を生きる子どもたちが、夢や目標を見つけ、それを学びの原動力として、その実現に挑戦していくことを目指すものだ。ここで育む子ども像を、昨今の世情に当てはめるとこうなる。：新型コロナ感染症の拡大防止が求められる中、自分たちにはどんなことができるのか、新しい知識やICTなども取り入れながら、仲間とよりよい対応案を考え行動する…。

では『夢育』をどのように進めていくか。一つは、地域社会とのつながりの中で将来を見通せるよう、夢や目標を見つけ挑戦する場を意図的・計画的に設定し、これに学校、家庭、地域が協力して取り組むことだ。

主な取組として、ふるさと学習や地域学などの課題解決型学習（PBL）とその成果を発信する場の充実、キャリアパスポートの効果的な活用、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進などが挙げられる。

もう一つは、夢や目標を見つけ挑戦する力を養うため、知・徳・体の力をバランスよく育むのとあわせて、意欲や自信など「自分を高める力」を重点に非認知能力を養うことだ。子どもたちに身に付けさせた力を具体的に設定し、それらを教育活動の中で計画的に見取り、フィードバックしながら、その好ましい行動を強化する取組がポイントである。できないところばかりに注目し、子どもたちのやる気を失わせては逆効果だ。

こうした取組はこれまでも少なからず行われてきた。だが、学校、家庭、地域がさまざまな課題を抱える中、改めて、関係者が認識を共有し、連携して取り組むことが大事ではないか。『夢育』で育む子どもたちが活躍する未来へ、さあ動き出そう。